

昭和27年8月11日第3種郵便物認可 平成25年6月1日発行(毎月1回1日発行) 第62巻6号 通巻729号

# 産業新潮

2013

6

June vol.62 No.729

# 幸福な田舎のつくりかた

金丸弘美 著

学芸出版社刊 定価1,890円(税込)

過疎、限界集落、シャッター通り等々、衰退する地方を象徴するような景色が毎日のように紹介されている。日本の地方、田舎は棄てられてしまったと嘆く声が鳴り響く。

著者は地方再生の処方箋を求め、田舎力を発揮し地方を活性化している現場を探し訪ね、激励し、レポートする作業を続けている。その数は全国1000個所余に及ぶ。本書に登場するのは、まず山形県鶴岡市。在来作物研究会、庄内映画村などを立ち上げたユニークなグループを紹介する。次に阿蘇一の宮門前町商店街。若者が主体に築き上げたレトロな商店街をレポート。続いて山口県萩市。地元



の味を育て届ける「道の駅萩しーまーと」の多様で斬新な試み。高知県四万十町。「道の駅四万十とおわ」の遊び感覚に溢れた独特な商品開発力がたくましい。愛媛県今治市。一軒の直売所が、農協と農家の意識を変え、120万人が訪れる店に変貌した。ほかに島根雲南市、群馬昭和村、長野飯田市などで独自の試みを展開するトップランナーたちが登場。いずれも一味も二味も違う街再生のドラマが展開する。

元気で、幸福な街とは、決して大規模なインフラが用意され、今どきの遊園地やステロタイプの子ヨッピングモールなどがセットされている街ではない。従来のはやり方を脱し、地域の豊かさ、優しさを自ら見つけ、多様な資源や人材をネットワークし、自分たちの価値観を発信し、人々に共感をもたらすような地域である。こんな著者の主張に思わず肯くのは評者は既にも3刷とのこと。応援も広がっている。

## 今月の本棚

コーポレートガバナンス——企業統治の問題は1960〜70年代、アメリカで企業の非倫理的行動、非人道的行動が指弾され抑止すべしとの声が浮上してくる。80年代には企業買収の問題が発生、また機関投資家の発言力が強くなり、利害関係者の衝突も起こり、その重要性が増大してくる。90年代にはイギリス、フランス、ドイツなど欧州諸国、あるいは日本においてもその重みは増してくる。

本書では、会社法制の見直しと、現下の課題を念頭においてコーポレートガバナンスのあり方をさまざまな角度から考察している。まず、海外との比較。1990年代以降、急速に関心が高まり、法改正やコーポレートガバナンス・コードの策定が行われたドイツ。取締役会のみで単層構造だった経営機構に加え、二層構造の経営機構を選択するようになったフランス。イギリスでは1992年に起きた企業不祥事を契機に、設置されたキャドベリー委員会の考え方が各国のコーポレートガバナンスをリ

ードした。さらに、1970年代の企業の理不尽な活動に対する不信の高まりからさまざまな問題に直面し論議されてきたアメリカについて考察がされている。そして日本。株式会社の組織・運営に関する会社法の規定を概観。さらに法制審議会の会社法制の見直しの方向性について言及している。

「コーポレートガバナンスは古くから新しい問題であり、終わることのないテーマである。大事なことは、企業の自主努力が生きる枠組みをつくることであり、企業の推進力を生かすという視点を忘れてはならない」。著者の姿勢が全編から伝わってくる。経営者はもちろんのことビジネスマン必読の書。

### コーポレートガバナンス入門

栗原 脩 監修

金融財政事情研究会刊

定価1,680円(税込)

